



企業における Windows 10 への対応状況

～調査で分かったクライアント PC 選びの最適解とは～

執筆・監修

株式会社インサイトイメージ

2015 年 7 月にマイクロソフトからリリースされた最新 OS「Windows 10」。リリースから 1 年が経過しようとしている現在、皆さまのお勤め先における対応状況はいかがでしょうか。

Windows 7 などの、以前の OS を引き続き利用している企業も多くあると思われますが、それらの OS にもサポート期限があり、いずれ OS のアップグレードが必要になります。

本レポートではアンケートを通じて、国内の企業における OS の導入状況、移行計画の実態などを探ってみました。

調査期間

2016 年 6 月 14 日～16 日

対象者

全国の企業に勤務している方のうち、
会社で購入する PC の機種選定を行っている、
あるいは会社で購入した PC の管理を行っている方 1,000 名

実査委託先

楽天リサーチ株式会社



Intel Inside®

飛躍的な生産性を

アンケートから読み解くクライアント PC 運用の現在

Windows 10 の導入状況

標準の Web ブラウザが「Internet Explorer」から「Microsoft Edge」に切り替わり、さらに昨今増えつつあるタブレット端末での利用に最適な「タブレットモード」を搭載、そして以前のスタートメニューが復活するなど、さまざまな面で強化が図られた新たな OS が「Windows 10」です。一般にリリースされたのは約 1 年前となる 2015 年 7 月で、家庭での利用を目的とした PC では徐々に浸透しつつあるようです。

それでは、企業で利用されているクライアント PC での利用状況はどうなっているのでしょうか。会社で購入する PC の機種選定を行っている、あるいは会社で購入した PC の管理（初期設定・故障対応・メンテナンス等）を行っている全国の 1000 人に対し、勤務先で利用しているクライアント PC で、メインで利用している OS の種類を尋ねたところ、50%以上の回答者が Windows 7 と回答、Windows 10 については 23.7%に留まりました。

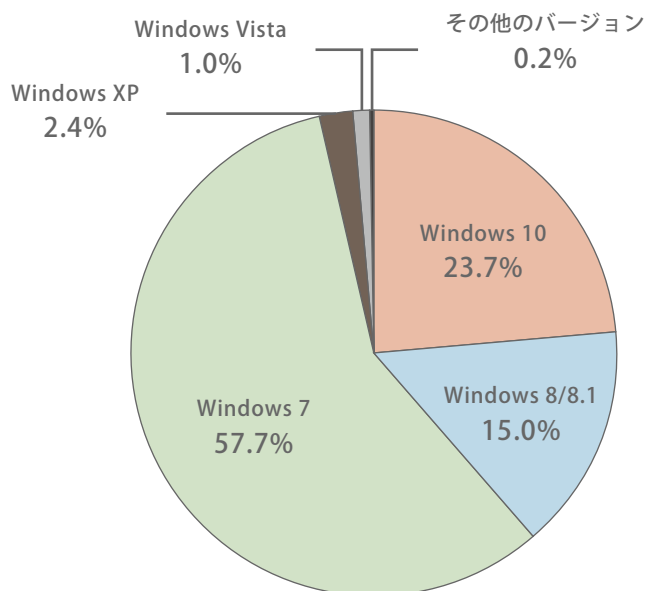


図 1. メインで利用しているクライアント PC の Windows のバージョン

2 | 企業における Windows 10 への対応状況

最新 OS に対して企業が感じている不安

Windows 10 のリリースから 1 年が経過しても、まだ以前の Windows 7 が使われている背景には、さまざまな不安があるようです。

アンケートにおいて Windows 10 の導入に対する懸念点を尋ねたところ、「業務で利用しているアプリケーションが対応していない」、「業務で利用するアプリケーションが対応しているか検証が必要」といった回答が「コスト」と回答した人の割合を上回りました。

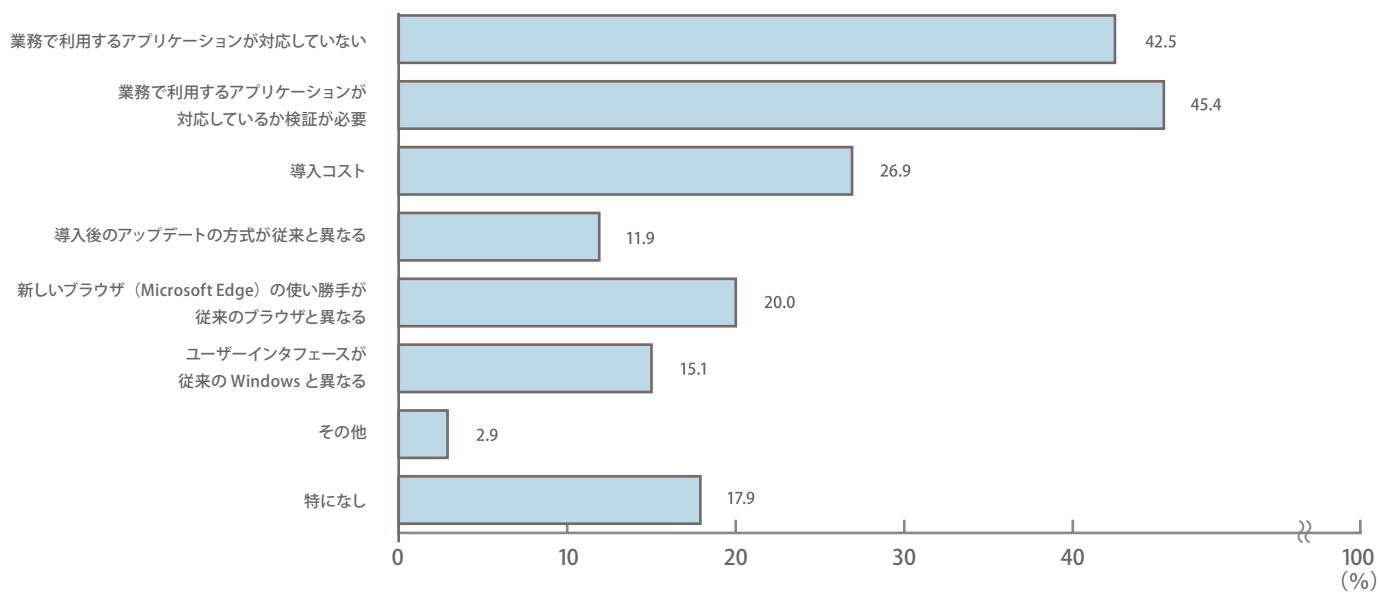


図 2.Windows 10 の導入に対する懸念点（複数回答可）

Windows 10 への移行に向けた準備期間

ただ Windows 7 も将来的にサポート期限が切れることを考えると、いずれかのタイミングで新しい OS に移行しなければなりません。現時点での選択肢は Windows 8.1 と Windows 10 がありますが、より長いサポートが受けられること、さまざまな機能強化が図られている点などを考慮すると、現実的な選択肢となるのは Windows 10 でしょう。

しかし OS の更新には、前述したアンケートでわかるとおり、さまざまな不安が付きまといます。そのため、業務で利用しているアプリケーションが問題なく動作するかといった検証を行う準備期間が必要になります。今回のアンケートで、Windows 10 の導入にあたり、どの程度の検証期間を設けるかを聞いたところ、「未定・わからない」を除いてもっとも多かったのは「4～6 か月間」で「2～3 か月間」がそれに続きました。

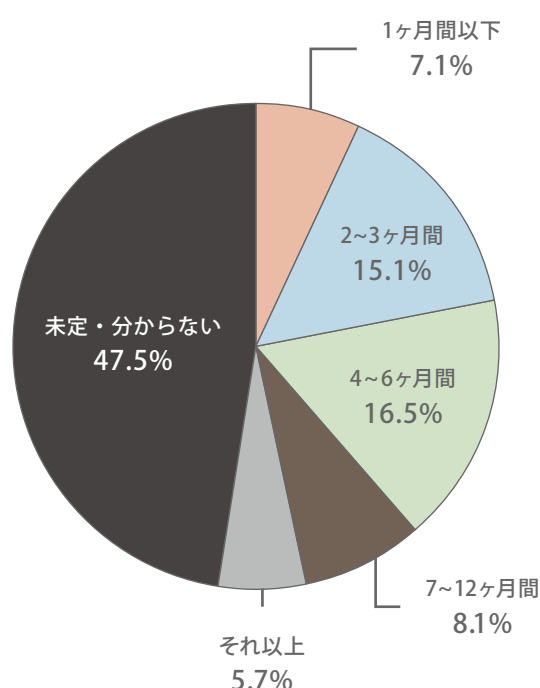


図 3.Windows 10 の導入にあたり、予定している検証期間

クライアント PC の刷新に合わせて OS をアップグレード

OS のアップグレードにおいて大きなポイントになるのはその方法です。家庭で利用している PC であれば、自分自身でアップグレードを行う方法も十分に考えられるでしょう。ただ業務で利用するクライアント PC の場合、インターネットやメール、あるいはプリンターを使うためなど、さまざまな設定を行う必要があるほか、場合によってはアプリケーションの再セットアップが必要となります。社内で使われているすべての PC について、情報システム部門がこれらの作業を一括して行うことになると、膨大な時間と手間がかかるため現実的ではありません。

それでは、Windows 10 にアップグレードする場合、どのような方法で作業を行うのでしょうか。この設問に対してもっとも多かったのは「未定・わからない」を除くと「クライアント PC 刷新（買い換え）に合わせて導入」でした。

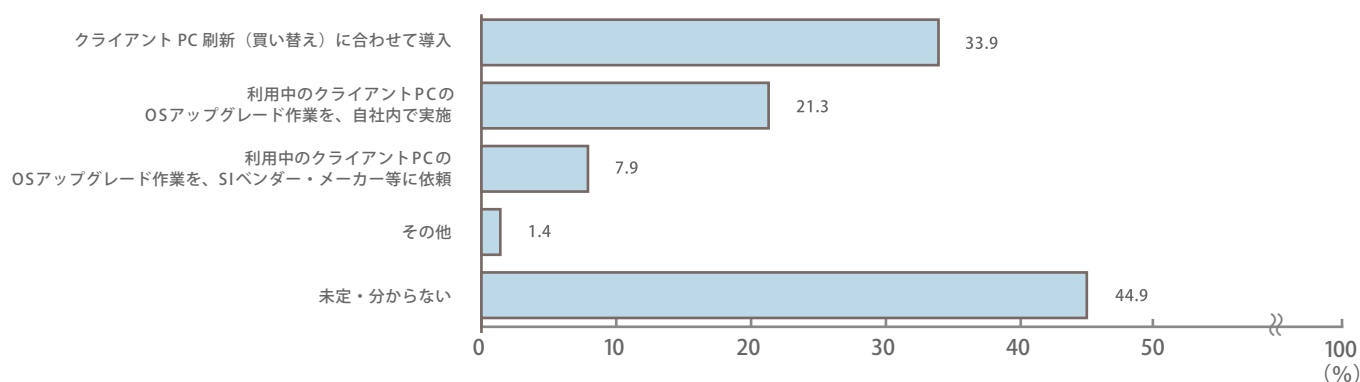


図 4.Windows 10 の導入方法

導入したクライアント PC の利用期間

OS の更新をクライアント PC の刷新に合わせて行うのであれば、次のクライアント PC の購入時期が Windows 10 導入のターニングポイントとなりそうです。

アンケートでクライアント PC の使用期間を尋ねたところ、多くの企業が 4 年以上利用することがわかりました。6 年以上と回答した人も 28.5%と 3 年以下の 17.7%を上回っており、導入した後は長期間利用する様子が見て取れます。

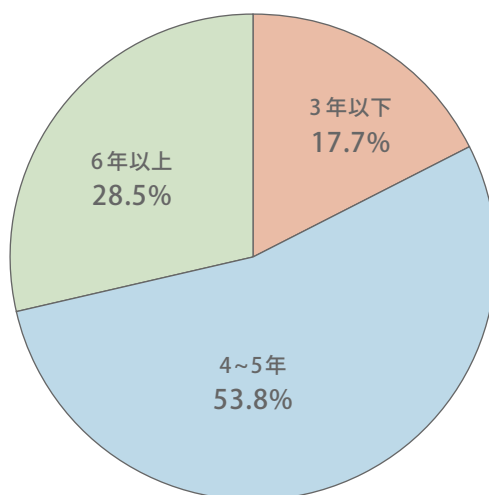


図 5. クライアント PC の利用期間

Windows 7 搭載 PC を購入できるのは 2016 年 10 月まで

ただ Windows 7 をプリインストールした PC を購入できるのは 2016 年 10 月 31 日までであり、それ以降に購入した新しいクライアント PC で Windows 7 を使うには、何らかの方法でダウングレードしなければなりません。

具体的な手段としては自社内でダウングレードする方法と、外部の SI ベンダーやメーカー等に依頼する方法が考えられます。またダウングレードせず、Windows 10 をそのまま利用するという考え方もあるでしょう。

この点について聞いたアンケート結果を見ると、「未定・わからない」とした企業がもっとも多く、「Windows10 プリインストール済みの PC を購入し、Windows7 / 8.1 にダウングレードする作業を自社内で実施」と「新規に調達しない (Windows10 の PC を購入し、そのまま Windows10 で利用)」がそれに続きました。

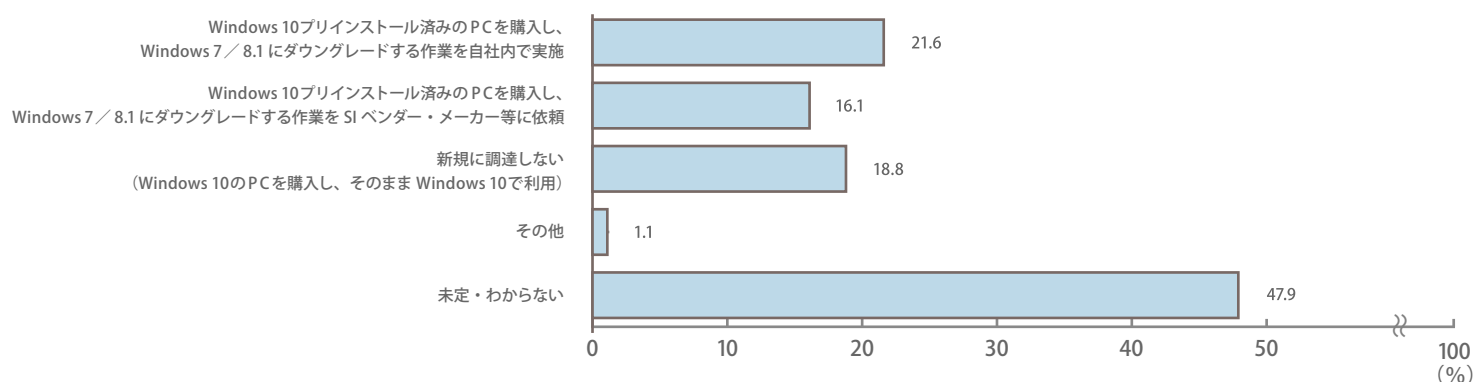


図 6. Windows 7/8.1 プリインストール済みPCの販売終了後の、Windows 7/8.1 のPCを調達する方法（複数回答可）

クライアント PC 選定で重要になる「OS のサポート期間」

なお、Windows 7 の延長サポートは 2020 年 1 月 14 日までで、猶予期間はわずか 3 年しかありません。またマイクロソフトは、インテルの最新 CPU である第 6 世代 Intel Core プロセッサを搭載した PC の Windows 7 のサポートについて、2018 年 7 月 17 日より後は、すべての緊急のセキュリティ更新プログラムのみの提供としています。

このため、最新の CPU を搭載するクライアント PC を Windows 7 で運用する場合、そのまま使えるのは 2 年程度に過ぎず、それまでに Windows 10 へのアップグレードを済ませておく必要があります。ただ、PC の選定においてサポート期間はそれほど重視されていないのが現状です。アンケート結果を見ても、クライアント PC を選ぶ際の基準で「OS のサポート期間が長いこと」と回答したのはわずか 11.9%でした。

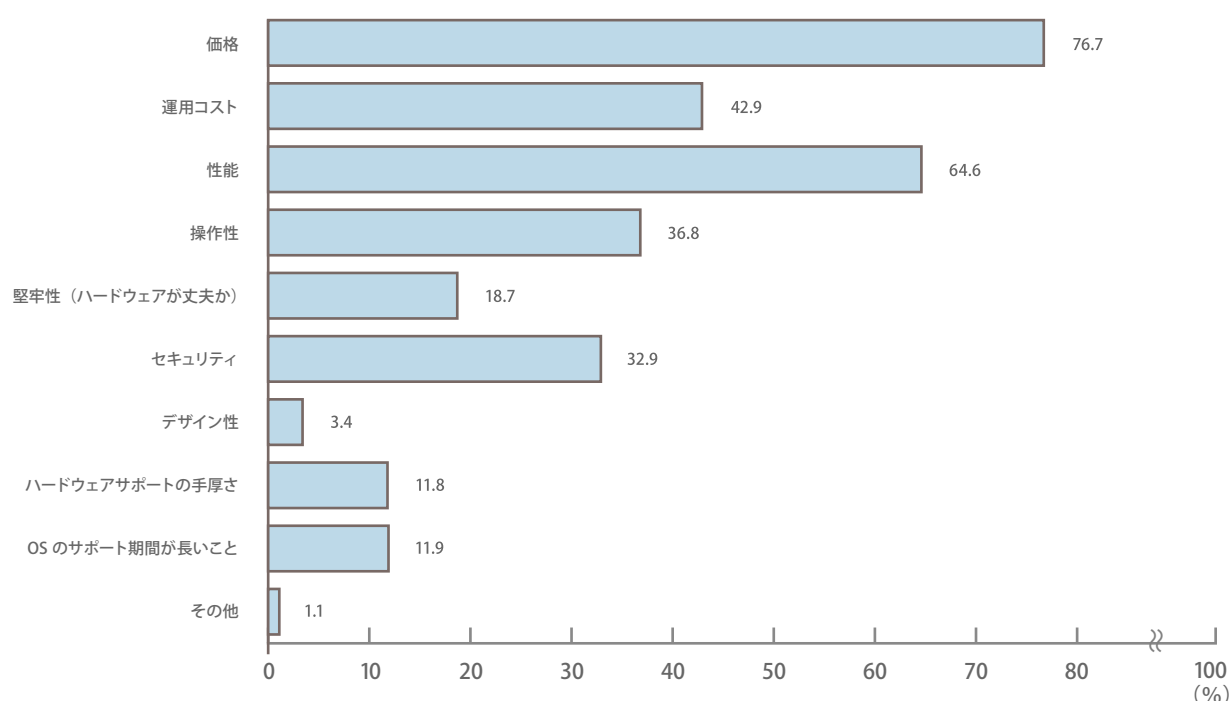


図 7. クライアント PC を選ぶ際の基準

今選ぶべきクライアント PC の姿

「7」と「10」、岐路に立つクライアント PC 選び

今回のアンケートを通し、クライアント PC の一般的な運用形態が見えてきたと言えるでしょう。具体的には、購入した製品を 4～6 年程度利用し続け、OS はアップグレードせずに導入時にインストールされていたものを使い続けるという形です。

この運用形態に当てはめて考えると、仮にクライアント PC の利用期間を 4 年とした場合、2016 年に購入したのであれば 2020 年まで使い続けることになります。OS に Windows 7 を選択するとアップグレードせずに 2020 年まで使い続けるということになりますが、ここで大きな問題となるのが、第 6 世代 Intel Core プロセッサを搭載した PC のサポートについては、2018 年 7 月以降、「すべての緊急のセキュリティ更新プログラム」の提供のみになることです。

マイクロソフトの OS には、まず「メインストリームサポート」と呼ばれる通常のサポート期間があり、その後「延長サポート」に移行します。メインストリームサポートでは仕様変更や新機能の追加、そして発見された脆弱性（セキュリティ上の問題となる可能性があるバグ）を修正するためのセキュリティ更新プログラムの提供などが含まれます。一方、延長サポートで提供されるのは基本的にセキュリティ更新プログラムの提供や有償サポートなどであり、新機能の追加はありません。

Windows 7 を使い続けるなら第 5 世代が購入のターゲット

Windows 7 について言えば、メインストリームサポートは 2015 年 1 月 13 日に終了しており、現在は延長サポート期間になります。ここでしっかりと理解すべきなのは延長サポート期間の違いで、第 6 世代 Intel Core プロセッサを搭載した PC は 2018 年 7 月まで、それ以前の PC は 2020 年 1 月までと、CPU によって 1 年半もの開きがあるのです。

このように見ていくと、OS をアップグレードせずに購入した PC を少しでも長く利用したいと考えるのであれば、第 4 世代、あるいは第 5 世代の Intel Core プロセッサ搭載 PC を選ぶということになります。

しかし第 4 世代 Intel Core プロセッサがリリースされたのは 2013 年 6 月であり、すでに入手は難しくなっている状況です。このため、これから Windows 7 搭載 PC を購入するのであれば第 5 世代 Intel Core プロセッサを使った PC がターゲットになります。

現段階でのクライアント PC 選びの最適解

これから Windows 7 をプリインストールした PC を購入するのであれば、CPU のほかにもう 1 つ意識しなければならないことがあります。それが Windows 7 プリインストール PC の販売終了です。Windows 7、そして Windows 8.1 をプリインストールした PC を購入できるのは 2016 年 10 月 31 日までであり、それ以降のプリインストール OS の選択肢は Windows 10 しかありません。

もちろん販売が終了しても、企業としてライセンスを有していれば、Windows 10 からダウングレードすることによって Windows 7 を利用することは可能です。ただダウングレード作業を社内に対応するにしても、あるいは社外に発注するにしても、作業負担や追加コストが生じるのは避けられません。

Windows 7 から Windows 10 に移行すれば、サポート期間やプリインストール PC の販売終了の問題をまとめて回避することが可能です。しかし現実的な問題として、Windows 7 で利用しているアプリケーションや周辺機器をすべて Windows 10 で検証し、動作しないものの代替策の検討までを行うのは簡単ではありません。

すでに Windows 10 の検証が完了していれば問題ありませんが、アンケートの結果を見る限り、そうした企業は決して多くありません。このように考えると、Windows 7 を当面使い続ける場合は、購入期限である 2016 年 10 月 31 日までに第 5 世代の Intel Core プロセッサを搭載した Windows 7 のプリインストール PC を購入し、2020 年までサポートを受けることが現状の最適解と言えるのではないのでしょうか。

本文および図中に掲載している商品の商標について

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Celeron は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

Microsoft は、Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他の本稿に記載されている社名・商品名・サービス名などは、それぞれ各社が商標として使用している場合があります。

執筆・監修

株式会社インサイトイメージ

ERP 導入支援をはじめとする PMO サービス、システム間連携を軸としたインテグレーションサービスを提供。
またエンタープライズ領域におけるテクノロジー解説記事なども数多く執筆している。



Intel Inside®
飛躍的な生産性を